

科目名	4254 都市と交通				単位	2単位	
担当教員	神田 直弥	実務経験		科目ナンバー	LIB162	開講時期	秋学期
授業概要	道路交通は身近な移動の手段であるが、安全で安心な移動を実現する上では様々な課題がある。本講義では「交通事故の防止」と「誰もが自由に移動できること」に焦点をあて、これらの実現に向けた取り組みについて概観する。最後にグループ単位でテーマを設定し、道路交通を取りまく諸問題の解決策について検討を行う。						
到達目標	[1]交通行動に係る人間特性を理解している。 [2]道路交通における課題と解決に向けた取り組みについて理解している。 [3]モビリティ・マネジメントの意義や手法について理解している。 [4]自ら課題を設定し、解決に向けた方策を検討することができる						
スキルの育成方法	グループワークや成果の発表を通して傾聴力、発信力、課題発見力、問題解決力、協働力、マネジメント力を育成する。						

○育成するスキル											
読解力		文章表現力		傾聴力	○	発信力	○	会話力		批判的思考力	
外国語活用能力		自文化理解力		多文化理解力		世界の動きへの関心		日本の動きへの関心			
情報収集力		論理的思考力		柔軟性		課題発見力	○	問題解決力		○	
決断力		主体性		感情制御力		セルフモチベーション		協働力	○	マネジメント力	○

○地域に関する学習					
地域の背景学習(庄内)	○	地域課題の認識(庄内)	○	地域課題の解決(庄内)	○
地域の背景学習(他地域)	○	地域課題の認識(他地域)	○	地域課題の解決(他地域)	○
学びの基本学習	○				

[教職]中学		高校(公民)		高校(地歴)		社福士		社福任用		[演習科目]		
[AL]課題学習		PBL		グループW	○	フィールドW		プレゼン	○	ディベート		振り返り

授業計画		
回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
第1回	導入・道路交通の特殊性と人間の行動特性 キーワード：ヒューマンエラーと違反、リスク知覚(SDGs3.6)	【事後】交通事故を減らすためにはどうしたらよいか (1時間)
第2回	導入・高齢者の事故と移動 キーワード：高齢者の特性(SDGs11.2)	【事後】高齢ドライバーは可能な限り運転するべきか、早めに返納するべきか (1時間)
第3回	子供を事故から防ぐ キーワード：衝動性、コーチング、ミラーリング(SDGs3.6)	【事後】子どもの交通安全教育を行うのは、家庭か、地域か、学校か (1時間)
第4回	環境改善による対策 キーワード：リスクホメオスタシス(SDGs3.6)	【事後】事故を減らすためには、安全な環境を作るべきか、危険な環境を作るべきか (1時間)
第5回	自動運転による事故防止 キーワード：状況認識、過信、オートメーションサプライズ(SDGs3.6)	【事後】トロッコ問題に対し自分なりの考えを述べる (1時間)
第6回	自動車依存の影響 キーワード：自動車利用のメリットとデメリット、カーボンニュートラル(SDGs11.2)	【事後】地方都市における移動はどのようにすべきか (1時間)
第7回	公共交通の利用促進(1) キーワード：路線バス、デマンド交通、モビリティ・マネジメント(SDGs11.2)	【事後】公共交通の利用を促進するためにはどうしたらよいか (1時間)
第8回	公共交通の利用促進(2) キーワード：MaaS、自動運転バス(SDGs11.2)	【事後】公共交通の利用を促進するためにはどうしたらよいか (1時間)
第9回	自転車利用の推進 キーワード：走行環境の整備、電動キックボード、パーソナルモビリティ(SDGs11.2)	【事後】自転車走行空間の整備方針のあり方(車道か歩道か)について自分の意見を述べよ (1時間)、グループワークのテーマを検討する (30分)
第10回	グループワーク① 問題の定義と原因探索	【事後】先行研究や関連データ収集 (2時間)
第11回	グループワーク② 問題点の整理と課題設定、解決策案の検討	【事後】他地域の事例調査、解決策案の検討 (2時間)
第12回	グループワーク③ 解決策案の評価と発表資料作成	【事後】発表資料の完成 (2時間)
第13回	グループワーク④ 成果発表	【事後】最終レポートの作成 (6時間)

第14回		
------	--	--

成績評価基準	コメントペーパー20%、復習課題（授業を通して考えたことを述べる）20%、成果発表20%、最終レポート40%。授業中の発言により加点する。											
前提科目		後継科目										
教科書	指定しない。											
参考書	松浦常夫編『交通心理学』, 北大路書房, 2017 (シリーズ心理学と仕事; 18) 図書館所蔵の電子ブックを活用する。後半のグループワークでは「知の編集力ハンドブック」を利用する。											
その他・注意事項	毎回の授業の後半にはグループワークを実施する（予定）。最終レポートは採点の上、フィードバックします。なお、授業中にスマートフォンを用いて意見を聴く機会を設けるため、スマートフォンを持参すること。											
1.貧困		2.飢餓		3.健康と福祉	○	4.質の高い教育		5.ジェンダー平等		6.水とトイレ		
7.エネルギー		8.働きがい		9.産業と技術革新		10.不平等		11.まちづくり	○	12.責任		
13.気候変動		14.海の豊かさ		15.陸の豊かさ		16.平和と公正		17.パートナーシップ				
文理横断												